

那覇空港の 将来を考えよう



本県を訪れる人の約九八%の人が空港を利用してあり、そのうち那覇空港は、年間約一、二五〇万人の人が利用(平成十五年現在)する沖縄の玄関口です。観光やビジネスばかりではなく、生活物資の輸送など県民の日常生活にも非常に大きな役割を果たしている重要な空港です。

このように需要の高い那覇空港に対し、平成十四年十二月、国の交通政策審議会は、「将来的に需給が逼迫することが予想され、総合的な調査が必要である」と示しました。

これを受けて、平成十五年度から国と県では「那覇空港の総合的な調査」を実施し、将来の需要増大に伴う利用者の利便性の低下など、さまざまな課題について検討していきます。

この調査ではPIE(パブリック・インボルブメント)を導入し、県民のみならず積極的に情報を提供して意見を取り入れながら検討を進めていきます。

那覇空港の将来は非常に重要な問題で、みなさまの協力が必要です。これから本格的に展開されるPIEに積極的に参加し、幅広い意見をお聞かせください。

PIE(パブリック・インボルブメント)とは?

一般的には、政策決定や公共事業の計画策定において、国民や地元住民が意見を表明できる場を設け、その意見を計画に反映させていくことを言います。

那覇空港の概要

種別：第二種空港
敷地面積：三二六ヘクタール
滑走路(長さ×幅)：三〇〇メートル×四五メートル
運用・利用時間：二十四時間

〔国内線旅客ターミナルビル〕
分散立地していた旧ターミナルビルの集約化と増大する航空需要に対応するため整備を行い、平成十一年に供用開始

〔国際線旅客ターミナルビル〕
航空需要の増加によって施設が狭くなったため、整備を行い、昭和六十一年に供用開始

〔貨物ターミナルビル〕
供用開始から数回の増築整備が行われ、現在は六棟を使用

〔航空路線ネットワーク〕
那覇空港の航空路線ネットワークは、本土・台湾の定期便からスタートし、本土復帰時に一五路線、その後は本土便を中心に拡充されています。

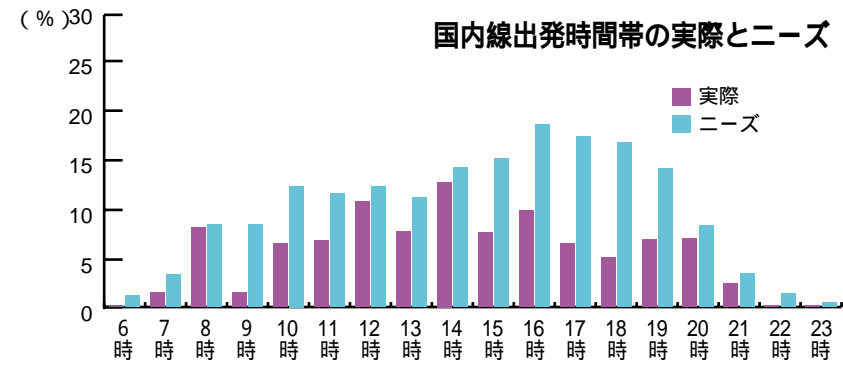
国内線：三一路線・三〇都市
県外路線：二三路線
県内路線：八路線

国際線：四路線・四都市
台湾(台北 中華航空 毎日二便)
中国(上海 中国東方航空 毎日一便)
フィリピン)

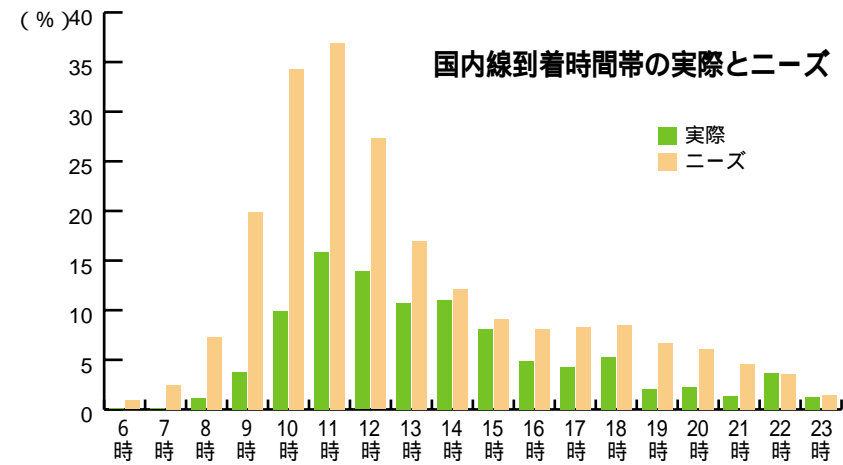
(マニラ フィリピン航空 週四便)
韓国(ソウル アシアナ航空 週三便)
〔路線・便数は平成十六年現在〕



現状と課題について



資料：航空利用者アンケート（平成16年12月）



資料：航空利用者アンケート（平成16年12月）

④ 出発時間と到着時間のニーズ

来県される方は、午前十一時台に那覇空港へ到着し、午後四時台に那覇空港を出発することを希望しています。しかし、現在ピーク時間帯である

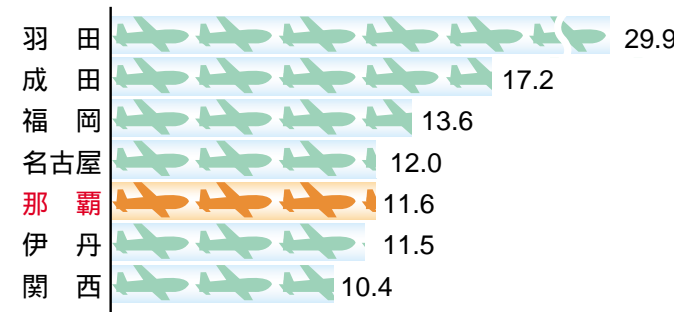
十一時台の運航数は三十回と、滑走路機能のほぼ限界に近い利用となっています。出発・到着時間ともに、現状とニーズの差が顕著となっています。



① 国内でもトップクラスの混雑空港

那覇空港は、年間の離着陸回数が一十二万回を超えます。また、一日当たりの平均運行便数は二百三十一便、ピーク時間帯の十一時台は運行便数が三十便を超えるなど、国内でも利用頻度の高い空港のひとつとなっています。

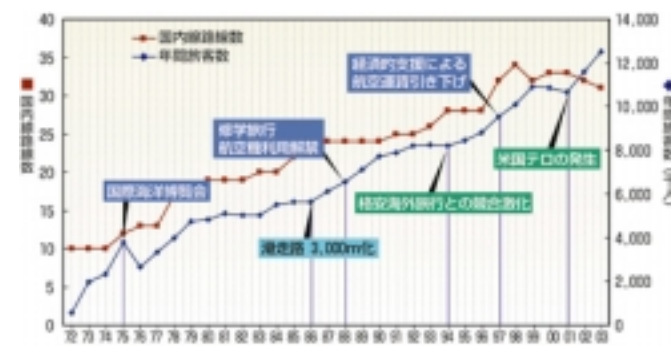
年間発着回数ランキング（平成15年）



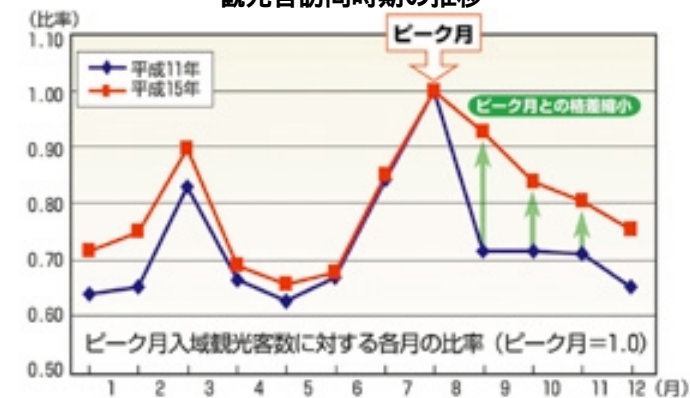
② 利用客数・路線数の増加傾向

那覇空港の利用客数は、本土復帰後から順調に増加し、年間一、二五〇万人（平成十五年現在）に達しています。同時多発テロの影響で、旅客数は一時的に落ち込みましたが、沖縄プームも相まって今後も増加傾向にあります。観光客数の約九八％が空路による訪問であることから、那覇空港は重要な社会基盤であるといえます。

観光客の需要の推移



観光客訪問時期の推移



③ 入域観光客数の平準化

これまで、那覇空港の利用は夏場のピーク時に多く集中していましたが、近年では、地元観光やリゾート業界のオフ時期への誘客活動、また、航空業界の割引運賃制度によりオフ時期への誘客が進み、年間を通じて入域観光客数が平準化する傾向にあります。

⑤ 広がる航空路線

昭和十一年の福岡～那覇～台湾の航空路線から始まった国際線。現在では、台北、マニラ、上海、ソウルの四都市と空路を結んでいます。本県は、コンベンションアイランドを目指し、国際会議の誘致に取り組んでいます。二〇〇〇年のサミットに始まり、今年四月には、米州開発銀行（IDB）年次総会が開催されます。また、恩納村には将来、世界最高水準の沖縄科学技術大学院大学の開学が予定されています。今後、沖縄の玄関口として那覇空港の役割はますます大きくなることが予想されます。



那覇空港の将来について考える

～ 那覇空港の総合的な調査に

オープンハウスとは？
 県民のみならず、立ち寄り
 ことのできる公共施設のロビー等
 で、パネル等を用いて情報提供
 し、意見収集や意見交換を行う
 場のことです。

パブリック・コメントとは？
 行政機関が、政策等に関する
 情報等を公表し、県民のみならず
 まから広く募集した意見等を考
 慮して最終的な意思決定を行う
 ものです。

平成十七年度には同計画に基づ
 き、第一ステップについてPIを
 実施していきます。

現在、各ステップで行うPIの
 具体的な手法やスケジュールにつ
 いて、「PI実施計画」を作成中
 です。
 ほかに、シンポジウムやアンケート
 などがあります。

Q PIにはどうやって
 参加するの？



「那覇空港の総合的な調査」



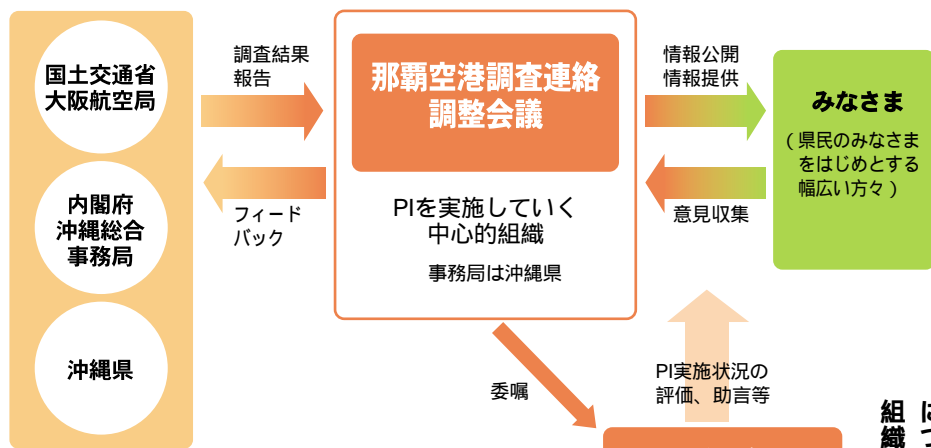
「那覇空港調査連絡調整会議」



シンポジウム
 有識者などによる講演や数名
 のパネリストとの対話を通じて
 「総合的な調査」の結果等につ
 いて、県民のみならず理解を深
 めてもらうため開催を予定して
 います。

ホームページ
 インターネット上のホームペ
 ージで情報を公開しています。

総合的な調査・PIの実施とチェックの流れ



Q どこがどんな役割で
 実施するの？
 PIを円滑に進めるため、国土交
 通省大阪航空局と沖縄総合事務局、
 そして沖縄県の三者で、「那覇空港調
 査連絡調整会議」を設置しました。
 この会議が窓口となり、みなさま

に情報を提供したり、ご意見をいた
 だくこととなります。
 また、平成十七年度は、同会議が
 行うみなさまへの情報提供や意見収
 集が適切に行われているか、評価・
 助言を行うための第三者機関である
 PI評価委員会(仮称)を設置する
 予定です。
 同委員会は、PI、法律、空港等
 について専門的知識を持つ有識者で
 組織します。

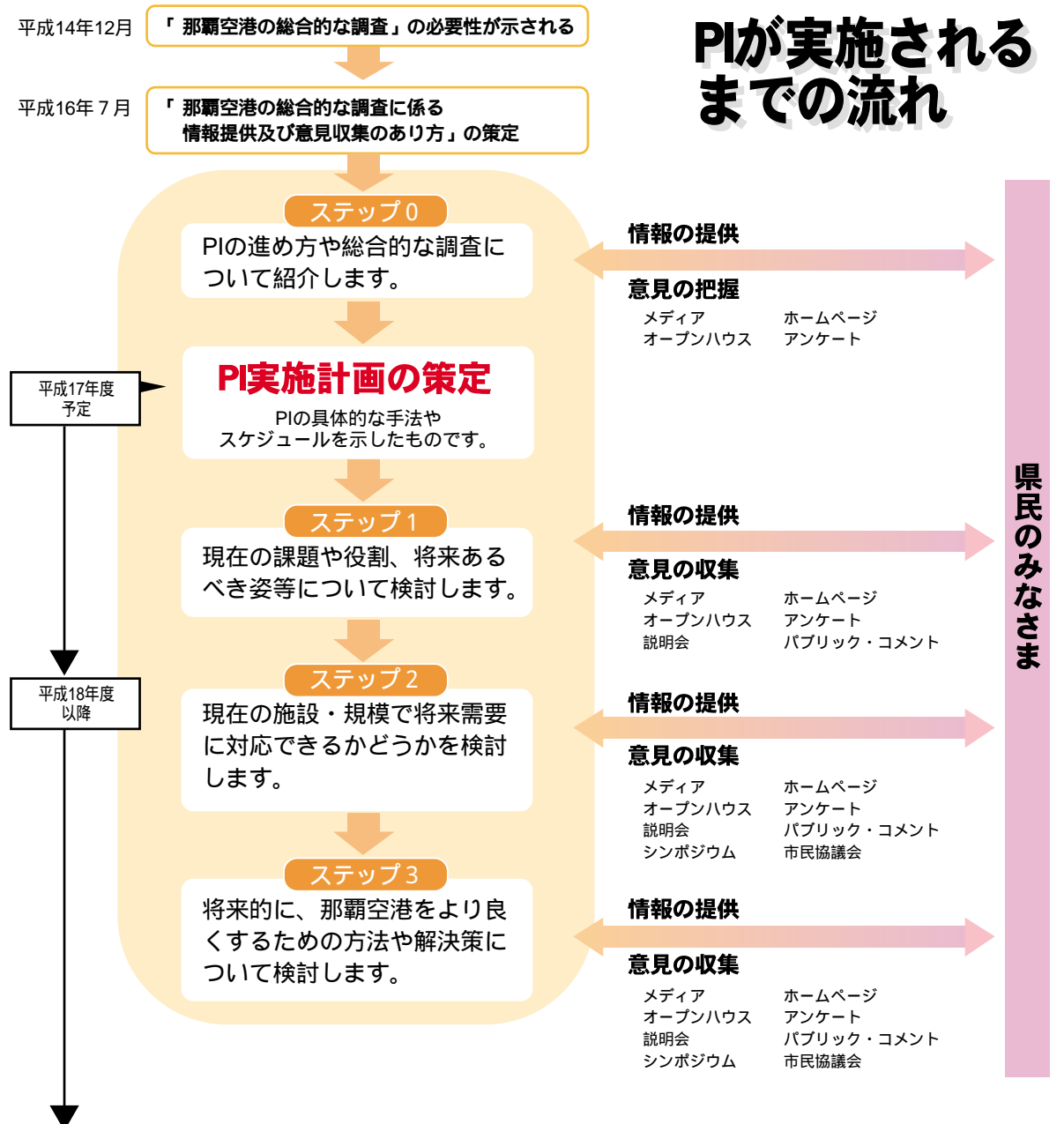
お問い合わせ

那覇空港調査連絡調整会議事務局(県交通政策室)
 〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2
 TEL.098-866-2045 FAX.098-866-2448
 E-mail : aa015500@pref.okinawa.jp
 http://www.pref.okinawa.jp/koutsuu/
 kuukou-tyouseikaigi.htm

PIにご協力お願いします

に係る情報提供及び意見収集

PIが実施される までの流れ



調査段階

計画
 実施

県民のみなさま

Q 「那覇空港の総合的な調査」
 って何？
 総合的な調査は、那覇空港の現在
 の施設や規模で、将来、需要に対応
 できるかどうか検討を行い、現在の
 空港能力を見極めた上で滑走路増設
 等の抜本的な能力向上方策につい
 て、施設配置や環境、費用対効果な
 ど多角的な観点から検討を行うこと
 としています。
 この調査では、那覇空港の「抱え
 る課題」「将来のあるべき姿」や、
 将来あるべき姿に近づくためには、
 「現在の施設で対応できるのか」「よ
 り良くするにはどういう方法を用い
 たらよいか」等について幅広く調
 査し、その対策案を考えます。

Q どうやって調査は
 進められるの？
 この調査では、県民のみなさまに
 わかりやすい情報を提供して意見を
 いただきながら検討を進める「PI
 (パブリック・インボルブメント)」
 を導入します。
 PIは、調査の進展に応じて三つ
 のステップに分けて実施し、段階的
 にみなさまと一緒に、那覇空港の将
 来について検討していきます。

